

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16538

研究課題名（和文）保健体育教師の校長職任用プロセスと経営的力量の形成に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Process of Appointment of Principal by Physical Education Teachers and Formation of Management Competence

研究代表者

朝倉 雅史（Asakura, Masashi）

早稲田大学・グローバルエデュケーションセンター・講師（任期付）

研究者番号：50758117

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、保健体育教師の校長職任用の実態とそのプロセス、経営的力量の形成について明らかにすることであった。その結果、校長になる過程は、制度的な影響だけではなく、文化・政治的な要因が関係していること、教育行政経験が一つの契機になっているとともに体育教師はその経験が比較的多いこと、教科の研究を通じた他校の教員や管理職との交流が影響していることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公立中学校長の多くが保健体育科を担当していたことについては、学校現場でも経験的に知られているが、その理由として生徒指導や部活動指導、体育的行事を通じた経験がスクールリーダーとしての役割意識や役割期待を形成することがあげられている。本研究では、教育行政における経験や勤務する学校から離れた教科の研究組織・集団における経験が影響していることについて、新しい解釈を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project was to clarify the process of appointment of school principal and formation process of their competences. The main findings were summarized below. First, it was suggested that the actual situation of appointment is not only determined by the system for appointment and selection of principals, but that cultural and political dynamics may also work. Second, Educational administration experience is an important trigger for appointment as a principal. Third, physical education teachers become principal not only through experience at school but also through interaction with teachers at other schools through subject research.

研究分野：体育学

キーワード：保健体育教師 校長 教科

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

保健体育教師のキャリアに関する研究では、中学校教員全体における保健体育教師の割合は約 12% であるのに対し、ある政令指定都市の中学校長に占める保健体育科出身者の割合が 33% である実態が報告されている (松田, 2009, 図 1)。また、京都府を対象に出身教科別の中学校長数と割合を検討した調査においても同様の傾向が指摘されている (榊原ほか, 2009, 図 2)。現場教員にも中学校長に保健体育科出身者が多い傾向が経験的に認知されている向きがある。

多くの保健体育教師が校長職へ任用される理由については、体育館やグラウンドなど行動範囲が物理的に広い場所で生徒を統率する能力や校務分掌として生徒指導主任を担当する経験が、管理者としてのイメージの醸成やリーダーシップ形成に影響していることなどがあげられている (榊原ほか, 2009)。これまでも保健体育教師の職務では、体育の「指導能力」に加え体育の『経営能力』が求められることが論じられてきた (武隈, 1992)。事実、保健体育教師には体育の授業だけでなく、運動会や体育祭のような学校全体の活動をマネジメントすることが要求される。校長職への任用に際しても「学習指導者」のみならず学校の「経営管理者」としての力量が求められることからすれば、保健体育教師としての経験が教頭・副校長等を経た校長職への任用と関わっていると考えられるだろう。

これまで保健体育教師の成長と学びを研究では、保健体育教師が生徒指導経験や体育的行事のリーダーとなる経験を自らの成長契機とし、「学習指導者」のみならず「経営管理者」としての教師像を自覚する傾向があることを示した (朝倉・清水, 2012)。また、保健体育教師としての成長には、体育授業についての知識の獲得や技術の習熟のみならず、仕事観や生徒観、学校観など学校全体の経営とも深くかかわる信念や価値観の形成が関係していることを示した (朝倉・清水, 2014)。近年、校長をはじめとしたスクールリーダーの育成が緊要の課題とされており学校経営学において蓄積が進む学校管理職研究では「教育に関する確固とした理念や価値観をもつこと」などの経営観ともいえる力量が重視されている (浜田, 2004)。さらに、経営観と深くかかわる経営理念が実際の経営行動を規定し、よりよい学しかし、中学校長に占める保健体育科出身教師の割合の大きさは、既に特定の自治体で確認されているものの、他の複数の自治体にあてはまる傾向か否かは不明である。また、保健体育教師が校長職として任用されるプロセスとその要因についての考察も、未だ実証分析に基づく検討が行われていないため経験則と推測の域を越えず学術的な知見には至っていない。さらに保健体育教師の経験は、あくまで体育や生徒指導に関わるものであり、その経験が教師集団をまとめる「スクールリーダー」としての経営的力量形成に寄与するか否かは、慎重な検討が必要である。そこで保健体育教師の校長職任用の実態と「体育の学習指導者」「体育の経営管理者」「学校の経営管理者」としての経験や学び、能力がいかに関連するか/しないかを実証的に検討することが肝要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、保健体育教師の校長職任用の実態とそのプロセスを明らかにすると共に、任用プロセスにおける保健体育教師としての経験や学びが経営的力量の形成に及ぼす影響を明らかにすることである。そこで 3 つの下位目的を設定した。

(1) 校長職における保健体育科出身者の実態と任用プロセスの検討

第 1 に保健体育教師出身者が校長として任用されている実態を既存の統計資料分析によって把握すると共に、時系列的視点から校長として任用されるプロセスの内実を明らかにする。

(2) 保健体育教師の経験と学びが校長としての力量形成に及ぼす影響の検討

第 2 に校長職任用プロセスの中で生じている保健体育教師としての「経験」と「学び」を抽出し、特に経営的力量の中心となる「経営観」の形成過程を明らかにする。

(3) 保健体育教師の校長職任用プロセスと経営的力量の特徴および固有性の検討

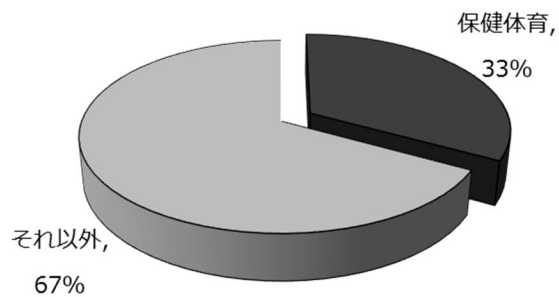


図 1 中学校長における保健体育出身者 (松田, 2009 図 6 を引用)

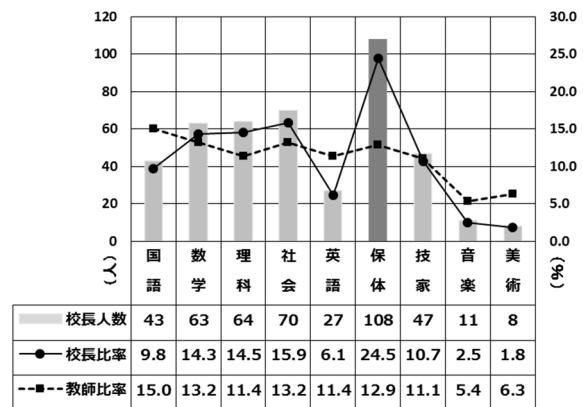


図 2 教科別に見た校長の人数と比率 (京都全体) (榊原ほか, 2009 図 1 に全国の教科別教師比率を加筆)

任用プロセスを通じた「経験」および形成された「経営観」に基づいて、保健体育教師の経験と学びが校長としての力量形成に与える影響とその固有性を検討する。

3. 研究の方法

本研究では、これまでの校長職に関する先行研究を基に力量およびその形成過程に関する知見を整理し、横断的視点に基づく実態調査と質問紙調査を実施することによって、保健体育教師の校長職任用の実態を明らかにする分析枠組みを構築した。さらに、それらを踏まえて定量的な実証分析を行うこととした。なお、主な調査対象は先行研究の知見（松田，2009；榊原，2009）と調査研究の規模を踏まえ公立中学校校長とする。

4. 研究成果

(1) 校長の実践と経営的力量を捉える枠組み

校長の力量に関する研究では、多角的な視点からその内容が分析されているが、主に、教育経営学における校長のリーダーシップ研究を中心に研究蓄積がある。とりわけ、日本教育経営学会が策定した「校長の専門職基準」は、我が国の文脈に沿いながら公教育機関としての学校の実態と学術的な知見に基づいており、校長の実践を総合的に捉える上で有効である。この基準は「1. 学校の共有ビジョンの形成と具現化」「2. 教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり」「3. 教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり」「4. 諸資源の効果的な活用と危機管理」「5. 家庭・地域社会との協働・連携」「6. 倫理規範とリーダーシップ」「7. 学校をとりまく社会的・文化的要因の理解」の7つの下位基準が構造化された形で示されており、校長の実践と力量を分析的に明らかにする上で有益と判断した。そこで、校長のリーダーシップや学校経営に関する研究や実践への関与経験が豊富な研究者と協力し、各基準に該当すると想定される複数の項目案を開発し、複数回の共同討議を経て質問紙調査可能な項目を作成した。

(2) 校長職任用プロセスの実態

保健体育教師にかかわらず、校長職への任用は、その選考の在り方が自治体ごとに異なる。だが本研究において実施したヒアリング調査によれば、任用の実態はさらに、管理職登用・選考制度によって定められているだけではなく、文化的・政治的な力学が働くこともあり得ることが示唆された。確かに当初想定した通り、学校内における生徒指導や体育的行事におけるミドルリーダーとしての実践が、保健体育教師自身のみならず周囲の教員にリーダーとしての存在を意識させることになっていたものの、新たに考慮すべき点が明らかになった。第一に、自治体によってその影響が異なるが、管理職として登用される上で教育行政経験が重要な契機になることである。このことについては、広く知られてはいるが、保健体育教師の場合は、他の教科を担当する教員のように指導主事や管理主事として教育委員会に出向する際、体育・スポーツ関連担当部署あるいは課に出向する点で、出向の機会自体が多いという語りも得られた。第二に、個々の教員が勤務する学校での経験だけではなく、往々にして市区町村の教科研究部会や民間の教育研究団体における、他校の教員とりわけ管理職との交流経験によって、保健体育教師が管理職任用を意識したり、管理職が保健体育教師に対してそれを意識させたりすることがあることも明らかになった。

(3) 調査票開発

以上の知見を踏まえて、以下の項目を柱とする質問紙調査票を開発した（注）。実態を把握するために、公立中学校長の属性（性別、担当教科、教職・管理職経験年数、部活動指導経験など）、現任校およびこれまで勤務してきた学校の特徴（所在する自治体の規模や基幹産業、学校規模、学力状況など）、校長の実践・経営的实践尺度（校長の専門職基準に基づく項目）、教諭およびミドルリーダー時の職務経験（勤務校における生徒指導主任経験や体育主任などの経験）、教科研究経験（教科の研究に関するテーマや頻度、研修環境、所属団体、他の教員との交流頻度）である。

(4) 今後の課題

開発した調査票を保健体育科のみならず他教科出身の公立中学校長にも配布する質問紙調査を行うことによって、校長職任用の実態を比較分析することによって、実証的な分析と考察を行うことが今後の課題である。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、公立中学校長対象の質問調査の実施を見送ったため今後調査を実施する。

参考文献

- 朝倉雅史・清水紀宏(2012)体育教師の成長における経験と教訓,日本体育学会大会予稿集,63:175,2012.
- 朝倉雅史・清水紀宏(2014)体育教師の信念が経験と成長に及ぼす影響 「教師イメージ」および「仕事の信念」の構造と機能,体育学研究59(1):29-51.
- 浜田博文(2004)校長が必要を感じている力量.小島弘道編,校長の資格・養成と大学院の役割,pp.175-179,東信堂.

松田恵示（2009）免許更新制と現職教員の力量．体育科教育学研究，26：60-66．

榊原禎宏ほか（2009）教科から見た校長職の登用・配置に関する実証的研究：京都府下の公立
中学校を事例にして．京都教育大学紀要，114：87-103．

武隈晃（1992）教師に求められる資質．宇土ほか編，体育科教育法講義，pp.189-193，大修館．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Asakura, M. and Shimizu, N.	4. 巻 16
2. 論文標題 A Study of How Teachers' Beliefs Affect the Experiences and Professional Development of Physical Education Teachers: Composition and Function of Their Image of What a Teacher is and Vocational Beliefs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Sport and Health Science	6. 最初と最後の頁 37-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.5432/ijshs.13030	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 朝倉雅史	4. 巻 5
2. 論文標題 教師の信念研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 70-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 朝倉雅史	4. 巻 11
2. 論文標題 多様化する運動部活動と地域との関係性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 みんなのスポーツ	6. 最初と最後の頁 15-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 朝倉雅史	4. 巻 3
2. 論文標題 不確実な実践に挑む「しなやかな信念」を持った教師を目指して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 体育科教育	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝倉雅史	4. 巻 30
2. 論文標題 体育教師の学びと研修環境に関する調査研究 学校種と研修観の違いに着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 体育・スポーツ経営学研究	6. 最初と最後の頁 43-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 朝倉雅史
2. 発表標題 教師教育の実践と研究 (3) 教科固有の教師の力量形成を共有する：体育科の立場から
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 朝倉雅史
2. 発表標題 教師教育の実践と研究 (2) : 教科の視点から教師の力量形成を考える (指定討論者)
3. 学会等名 日本教師教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 朝倉雅史
2. 発表標題 体育教師の信念に関する研究の意義と課題
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----